雨宿りが運んだ出会い

「校長先生、報告があります！」
昨日の下校時、ほとんどの生徒が私の前を通過してからです。三年のM・Mさんが私のもとにやってきてこう言いました。どんな報告だろうと耳を傾けると、彼女は落ち着いた様子で、理路整然と話をしてくれました。
「昨日帰る途中で激しい雨が降ってきたので、近くの建物の軒先で雨宿りをしていました。すると、（その建物の）斜め向かいの家のおばあさんが、タオルとペットボトルのお茶を持ってきてくださいました。
タオルは自分のものがあったので、丁寧にお断りました。お茶もお断りしようと思ったのですが、おばあさんの気もちがうれしかったし、厚意を無駄にしてはいけないと思って受け取りました。
このことをお母さんに話したら、お礼に行こうと言ったので、今日帰ったら行ってきます。」
わざわざ私のもとにやってきてまで話をしてくれたことを考えると、彼女にとってよほど感動的なできごとだったのでしょう。前日の出来事でも、Mさんはうれしそうに話してくれました。
聞いていた私にも、大きな喜びが生まれました。雨宿りが運んだおばあさんとの出会いの素晴らしさはもちろんのこと、Mさんがそれを校長の私に報告に来てくれたことも感動でした。
また、その時に彼女がとった行動にも感心しました。自分のものがあったので、タオルについては遠慮した彼女ですが、ペットボトルのお茶については、おばあさんの気もちを考えて「厚意を受ける」という選択をしました。
「Mさんのとった行動は、その時に最もふさわしいものだったと思うよ。おばあさんの気もちを考えて、自分で判断して行動できたことがすばらしいね。」
私は彼女のとった行動を褒めました。相手の立場に立って考えるとよく言いますが、瞬間的にとなると、なかなかできるものではありません。瞬時にそれができたMさんは、確実に大人に近づいていると私は思いました。
おばあさんの好意を受け止めたのはMさんだけではありません。彼女の母親も娘と共に受け止めてくださいました。娘が受けた厚意に親として動いてくださったことは、Mさんの成長に大きな意味を持つことでしょう。
何十年後かわかりませんが、雨宿りしている子どもを見たMさんの脳裏に一昨日のできごとが蘇り、おばあさんと同じ優しさを発揮するでしょう。また、将来親になったMさんが、一昨日の母親の姿を思い出し、我が子が受けた厚意に「お礼に行こう」と笑顔で誘うことでしょう。二人のすてきな大人の姿が、Mさんをさらに成長させる気がします。

（九月八日　記）